ITEM 35125

M151A2

M151A2 w/TOW MISSILE LAUNCHER (M220 TRACKING SYSTEM)

1/35ミリタリーミニチュアシリーズNO.125

M151A2・トウミサイルランチャー

TAMIYA

静岡市恩田原3-7 〒422

FORD IS A REGISTERED TRADEMARK OWNED BY FORD MOTOR COMPANY AND IS BEING USED PURSUANT TO PERMISSION GRANTED BY FORD MOTOR COMPANY.

《陸軍タイプ》

《海兵隊タイプ》

キットは1台分です。

協力：大塚康生

第2次大戦での幅広い活躍で連合軍の勝利の一因とも言われたジープは、戦後、世界の軍隊に普及し、地上部隊の最小単位の輸送手段として欠かせないものとなりました。今日、ジープだけでなくそれに類する小型4輪駆動車が各国で開発され、使用されていますが、その任務はほとんど第2次大戦中にMB、GPWジープによって定型化されたもので、兵員輸送、偵察連絡、機関銃キャリア、アンビュランスなど機動力を生かした様々な任務が与えられています。

大戦後、それらにもうひとつ新しい使用方法が加わりました。小型ロケット砲運搬車がそれです。すでに大戦中、軽快な行動力と重機関銃の打撃力を組合わせて、ヒットエンドランといった奇襲戦法がジープの重要な任務のひとつとなっていましたが、軽量で扱いやすいロケット砲の発達により、対戦車攻撃などにも十分に有効な火力をジープは持つようになったのです。

アメリカ軍では1950年から105㎜無反動砲の実戦部隊配備を始め、当初は対戦車攻撃用に設計されていましたが、後に対人、対建造物にも有効な弾頭が開発され、汎用火器とし地上軍の様々な戦闘兵科に使用されるようになりました。歩兵師団のライフル中隊、戦闘支援中隊、騎兵師団の各戦闘中隊に配備されていましたが、後に大幅に改良されて106㎜無反動砲となり、空挺、機甲、海兵などの師団の火力として普及するようになったのです。

105㎜、106㎜ともに地上にすえ付けて射撃するベースマウントごとジープの後部に固定でき、ジープに搭載したままで射撃が可能となっていました。106㎜無反動砲M40シリーズは、M38A1ジープの車載制式火器として、搭載のために特別な仕様としたM38A1Cジープが地上軍に配備され、さらにM151マットにひきつがれてM151C、M151A1Cと呼ばれるタイプを生み出しました。そして70年代後半、新しくM151A2が登場すると共に、M825と呼ばれる独立した車輌として区分されることになったのです。M825は、ボディ各部をM40シリーズ無反動砲搭載に合わせて変更してあるほか、全備重量325kgの砲の荷重に耐えるよう、リヤサスペンションも強化されました。このM825は、やがて106㎜無反動砲にかえて、TOWミサイル・ランチャーを搭載するようになるのです。

TOWミサイルは、106㎜無反動砲にかわるものとして1960年代初めに開発が始められました。70年末にはベトナム戦にも投入されて威力を実証し、改良が加えられ、ほぼ全兵科で106㎜無反動砲にかわっています。制式名はBGM−71Aですが、チューブ発射、光学追尾、ワイヤー誘導・Tube-launched, Optically-tracked, Wire-guided の頭文字をとって一般にTOW・トウミサイルと呼ばれています。

TOWは、半自動誘導方式のミサイルで誘導用の細いワイヤーを曳きながら飛行します。射手は、目標を照準器の十字線上にとらえているだけで、ミサイル後端から放射される赤外線を照準器のセンサーがキャッチしてミサイルの飛行方向と目標のズレをチェックし、ワイヤーによって修正信号が送られ、目標に向います。このためそれまでのミサイルに較べると格段に操作がやさしく、高い命中率を持つことになったのです。射程距離も106㎜M40A2無反動砲の最大1097mにくらべて3750mと飛躍的に伸び、80年代の地上軍の花形火器として日本も含めて30ヶ国で使用されています。

TOWミサイルは、106㎜無反動砲にくらべて大型のため、1台では1分隊の4名と常備弾頭8発を収容しきれず、2台の車を使用し、ミサイル・ランチャーを装備するM825にミサイル2発を搭載すると共に2名のクルーが搭乗、もう1台のM151A2アミュニション・キャリヤ(弾薬運搬車)にスペアミサイル6発を搭載、兵士2名が乗ってペアを組んで行動することになっています。そしてアメリカ軍では、こうした不便さを解消するために、ジープにかわりより大型のHigh Mobility Multipurpose Wheeled Vehicle・ハンビーと呼ばれる車輌を開発、FMCのXR311ミリタリーデューンバギーから発達したもので、1983年には制式化が予定されています。

《作る前にお読み下さい》

★お買い求めの際、または組み立ての前には必らず内容をお確め下さい。万一不良部品、不足部品などありました場合には、お買い求めの販売店にご相談下さい。なお組み立てを始められた後は、製品の返品、交換などに応じかねます。

★タミヤからはビン入りの接着剤タミヤセメントが別売されております。モデルをきれいに仕上げるタミヤセメントをお使い下さい。

★ナイフ、ニッパー、ピンセット、ヤスリ等を用意します。部品をランナー（枝）から切り離すときには手でもぎとらずにナイフやニッパーを使います。

★接着剤は少しずつ両面につけるのがきれいに仕上げるこつです。

このマークは塗装指示のマークです。全体の塗装とマーキングは、6ページを参考にして下さい。

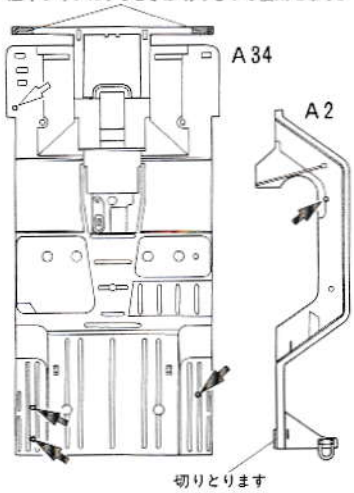
★すべての塗装指示はタミヤカラー（アクリル塗料、エナメル塗料）で指示してあります。色の正確なタミヤのカラーをご使用下さい。

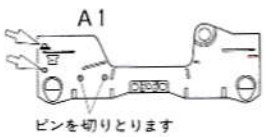
1 《シャーシーのくみたて》

《シャーシー部品の工作》

シャーシーの組み立てに入る前に、下図の黒い矢印のところの穴をキリなどで明けておきます。さらに、海兵隊仕様にする方は白い矢印のところの穴もあけて下さい。組み立て図中にも示してありますので参考にして下さい。

陸軍タイプにするときは切りとって使用します。





1 シャーシーのくみたて

★このキットは陸軍タイプか海兵隊タイプのどちらかを選べます。

B10 A21

B33
向きに注意して下さい。

穴をあけておきます

B22
A2
B21

陸軍タイプにするときは線の所から切りとります。

A34

海兵隊タイプにするときは穴をあけます。

レッド
A1

A4

ピンを切りとります
レッド
海兵隊タイプにするときは穴をあけます。

穴をあけておきます

2 サスペンション部品のとりつけ

B24
B23
B29
B28
B20
B30
シャーシー
A15
A5
A15
B27
★海兵隊タイプにするときは黒くぬられた部分を切りとります。

3 台座のくみたて

《誘導装置》

オリーブドラブ
C2
C36

《無線機》

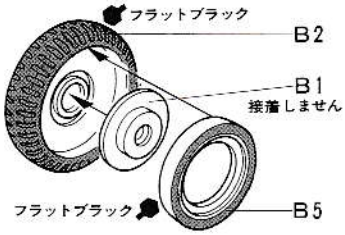
C19
C37
C22
オリーブドラブ

《台座》

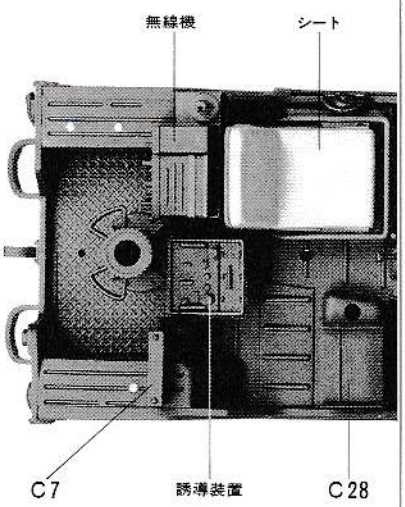
C13
C17
C4
C17
C11

5 《タイヤのとりつけ》

《タイヤ》4個作ります

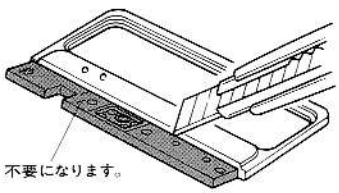


《部品のとりつけ》

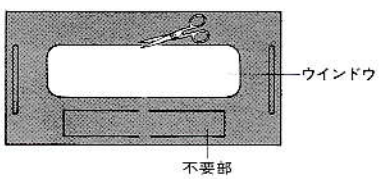


6 《ウインドウのくみたて》

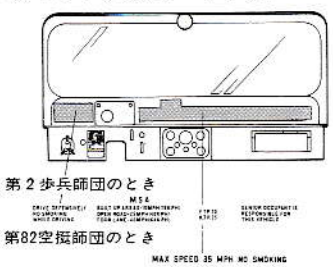
ウインドウをたおした状態にするときは、下図のように切りとって使用します。



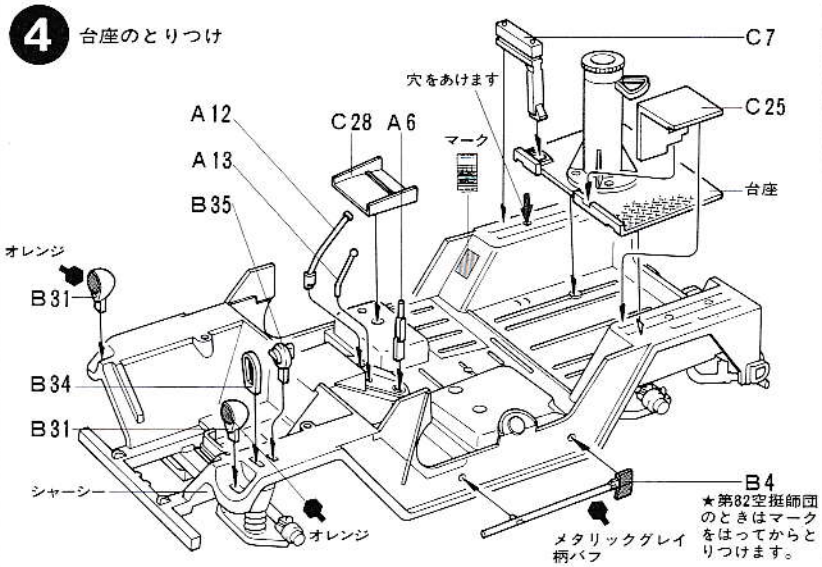
透明部品は下図のように切りとって使用します。



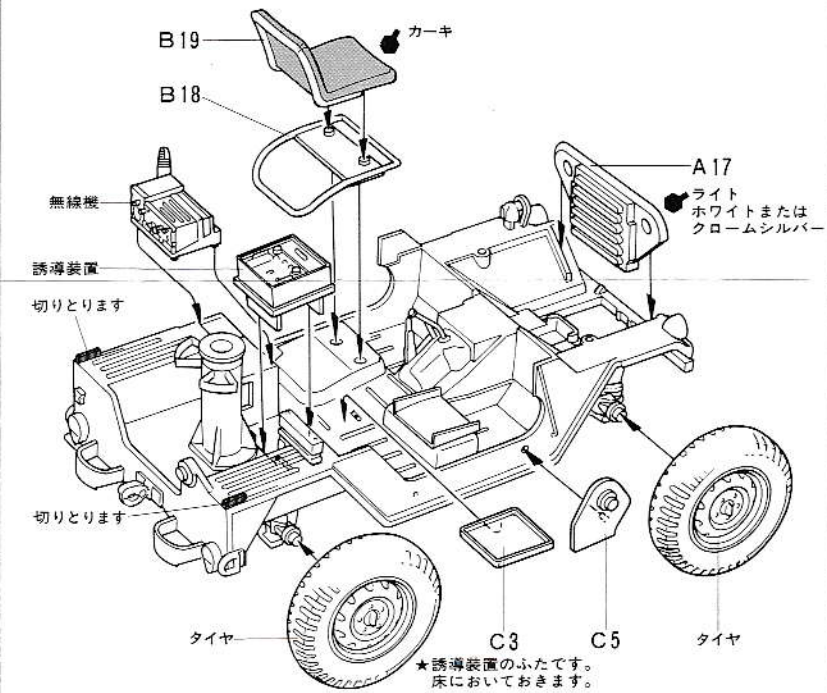
《ウインドウ部のマーキング》



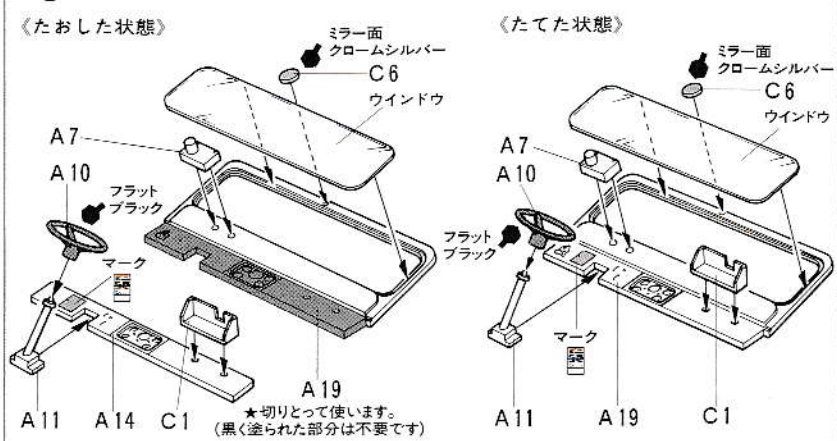
4 台座のとりつけ



5 タイヤのとりつけ



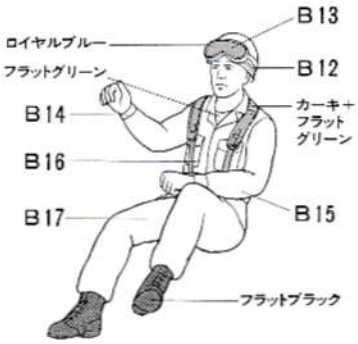
6 ウインドウのくみたて



❼《ウインドウのとりつけ》

《人形のくみたて》

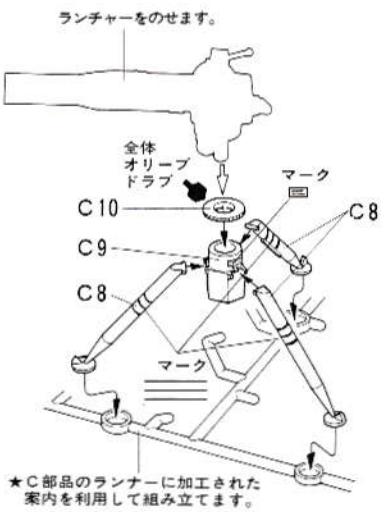
★腕はハンドルにあわせてとりつけます。



《迷彩服の塗装》

❽《ランチャーのくみたて》

《三脚のくみたて：車外で使用するとき》

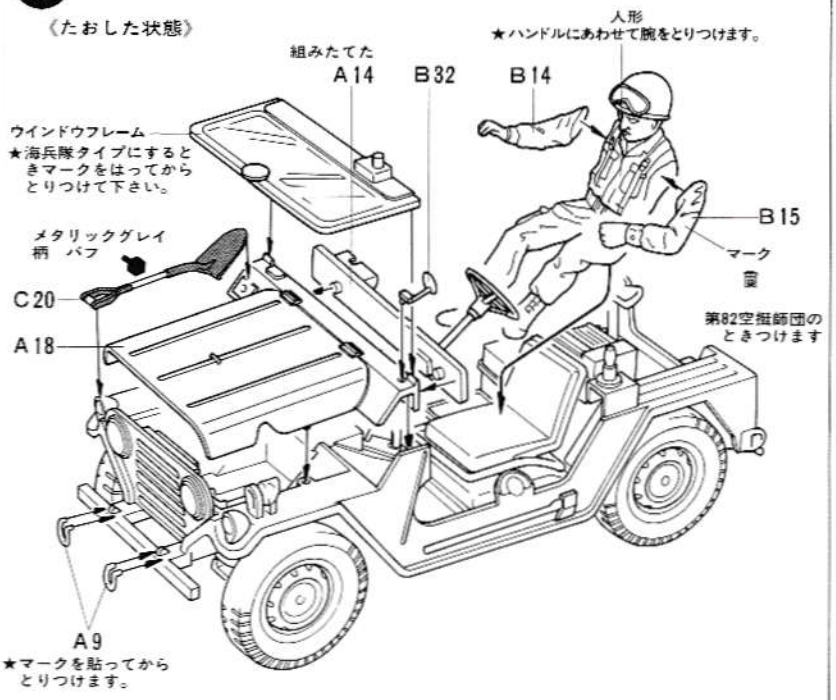


タミヤニュースを読もう

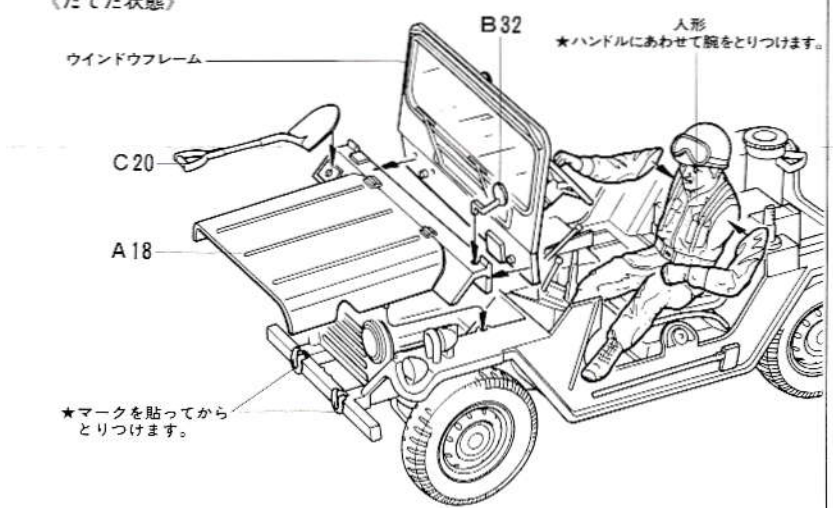
タミヤニュースはモデル作りの情報誌として多くの方に愛読されています。ご希望の方は模型店でおたずね下さい。当社より定期購読する方法もあります。

❼ ウインドウのとりつけ

《たおした状態》



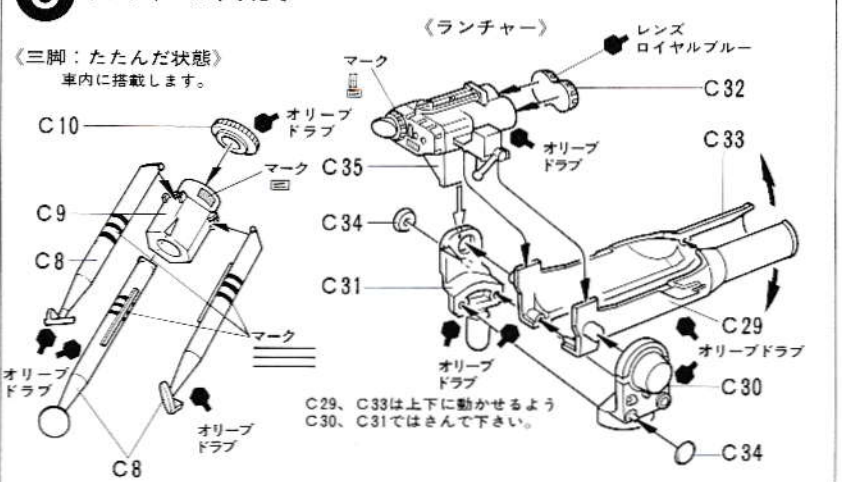
《たてた状態》



❽ ランチャーのくみたて

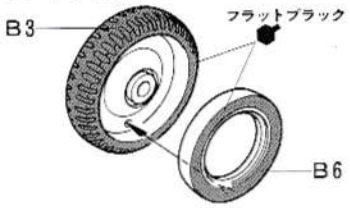
《三脚：たたんだ状態》

車内に搭載します。

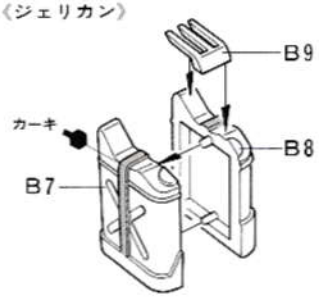


9 《ミサイルの搭載》

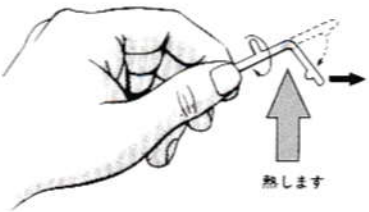
《スペアタイヤ》



《ジェリカン》



《アンテナの作りかた》



★ランナー（枝）を利用して作ります。上図のように熱し曲ったらはじをひっぱりのばします。動かさずに15秒ぐらい冷したら7cmに切って使用します。

《ジェリカン、スペアタイヤのとりつけ》

《不要部品》

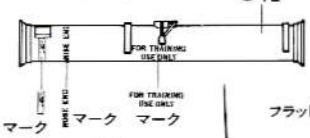
A部品
3、20、22、23、26、27、28、29、30、31
32、33
B部品
11、25、26、と18、19の1個ずつ

TAMIYA COLOR
タミヤカラー(アクリル塗料)
ぬりやすいアクリル樹脂の塗料です。筆は水洗いもできます。筆塗り、スプレーで美しい仕上がりが楽しめます。NET23cc

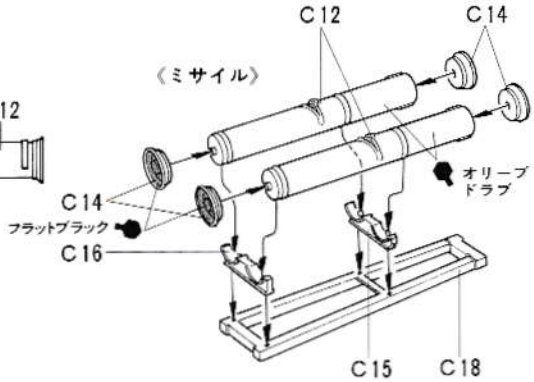
●万一、不良部品などございました場合は、お買い上げの販売店にお申し出いただくかまたは現品をそえて当社アフターサービス係にご連絡下さい。又各パーツは部品ワク単位で販売しております。御利用されるときは当社アフターサービス係までお問い合わせ下さい。

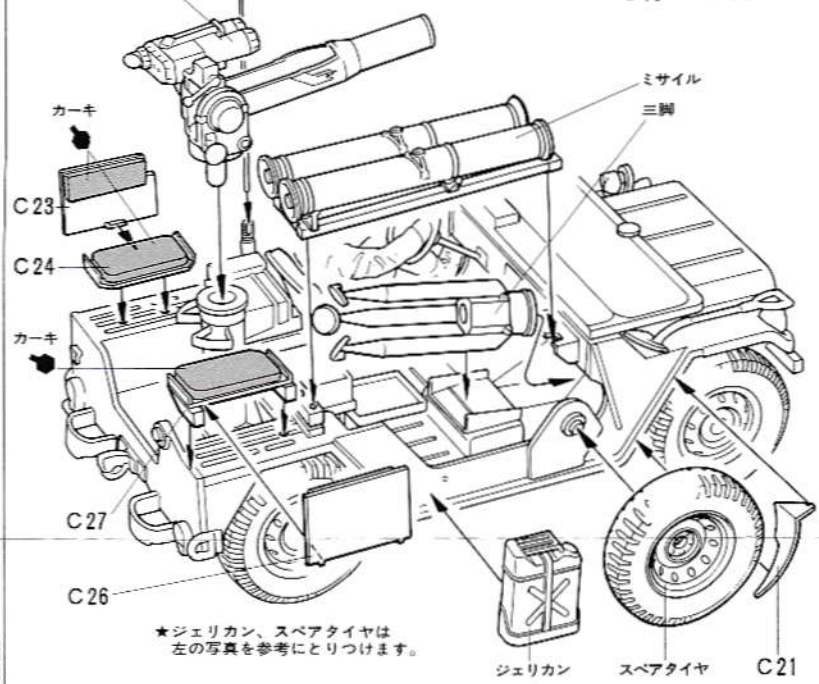
9 ミサイルの搭載

《ミサイルのマーキング》
2個とも貼ります



《ミサイル》

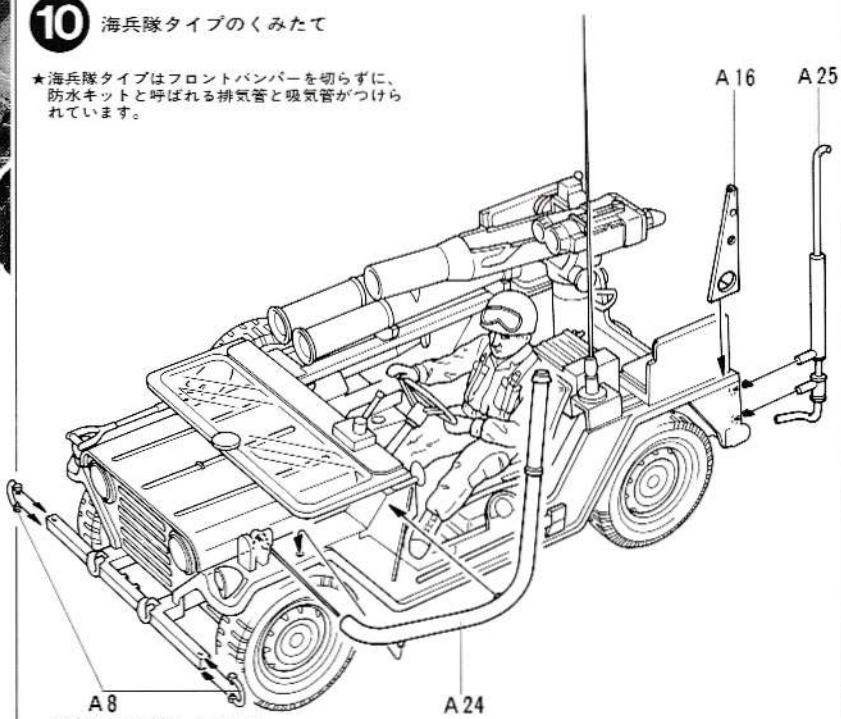




★ジェリカン、スペアタイヤは左の写真を参考にとりつけます。

10 海兵隊タイプのくみたて

★海兵隊タイプはフロントバンパーを切らずに、防水キットと呼ばれる排気管と吸気管がつけられています。



接着しないで押しこみます。

PAINTING & APPLYING DECALS

《M151A2トウミサイルランチャーの塗装》
現在のアメリカ軍は、陸軍、海兵隊ともに車輌の塗装は4色を組合わせた迷彩塗装が採用されています。陸軍ではホワイトやサンド、ダークグリーン、フォレストグリーン、ブラックなど標準の12色が定められ、季節や地域に合わせて組合わせが決められます。また海兵隊ではグリーンを主体としたもの、サンドを主体としたものなど地域に合わせて3種類が決められています。迷彩のパターンなど、右の図や箱側面のカラー図を参考にして下さい。またマークやナンバー、さらに文字は黒となっています。

なお細部の塗装、ドライバーの人形の塗装については、組立図中に指示してあります。

《使用する塗料》

フラットブラック	XF-1
フラットホワイト	XF-2
フラットグリーン	XF-5
ハルレッド	XF-9
カーキ	XF-49
カーキドラブ	XF-51
メタリックグレイ	XF-56
バフ	XF-57
オリーブグリーン	XF-58
オリーブドラブ	XF-62
レッドブラウン	XF-64
フィールドグレイ	XF-65
ロイヤルブルー	X-3

《スライドマークのはりかた》

1－《マークをはる前に》
スライドマークをはる所のほこりや油気を、ぬらした布で良くふきとって下さい。

2－《マークを切りはなす》
はりたいマークをハサミで切りとり、必ずニス(透明な)部分をきれいに切りとります。

3－《マークをぬるま湯にひたす》
ぬるま湯に10秒程ひたしてからひきあげタオル等の布の上におきます。

4－《マークをはる》
台紙のはしを手でもち、マークをスライドさせてモデルに移して下さい。

5－《マークを正しい位置に移す》
指に少し水をつけてマークをぬらしながら正しい位置にずらします。

6－《布で水分をとる》
タオル等のよく水気をすうやわらかい布でマークの内側の気泡をおし出しながら、おしつけるようにして水分をとります。
マークをはる場所が曲面凸凹している時は、むしタオルでマークをおさえて下さい。マークがモデルの形になじみます。

そのままマークが完全に乾くまで手をふれないで下さい。

タミヤの総合カタログ

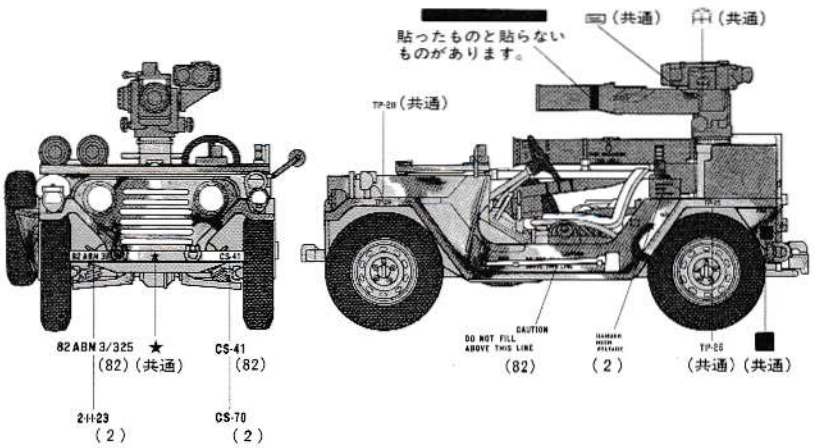
タミヤの全製品を詳しく解説した総合カタログは年に1回発行。ご希望の方は模型店でおたずね下さい。

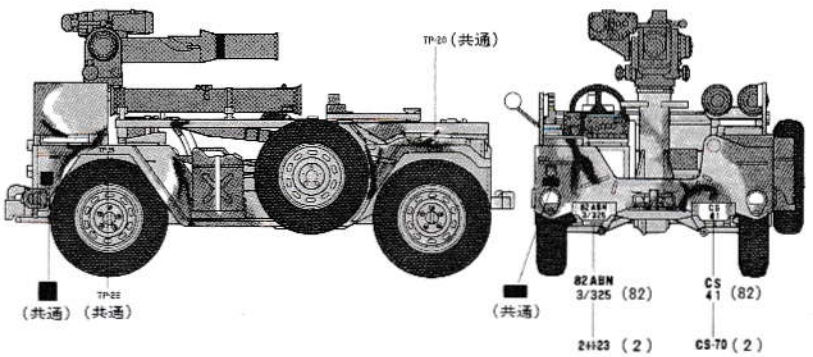
田宮模型
静岡市恩田原3-7 〒422

陸軍タイプ 《第82空挺師団(アメリカ本土)》《第2歩兵師団(韓国駐留)》

レッドブラウン＋フラットホワイト　バフ＋フラットホワイト　フィルドグレイ　フラットブラック

★(82)は第82空挺師団、(2)は第2歩兵師団を表します。どちらか選びます。
組立て図中にもマーク指示があります。

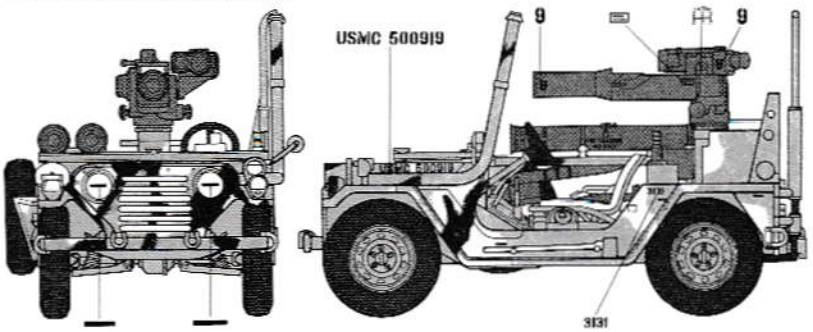


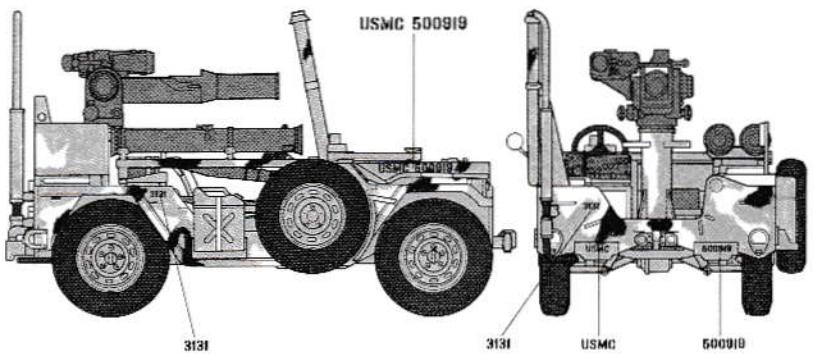


海兵隊タイプ

オリーブグリーン＋フラットホワイト　オリーブグリーン＋カーキドラブ　フラットブラック

組立て図中にもマーク指示があります。





0395 PRINTED IN PHILIPPINES